



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年7月24日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社コーエーテクモホールディングス
 コード番号 3635 URL <http://www.koeitecmo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 襟川 陽一
 問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員CFO (氏名) 浅野 健二郎 TEL 045-562-8111
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月4日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	6,516	△15.3	984	△16.4	4,183	239.8	3,058	182.5
29年3月期第1四半期	7,695	12.9	1,178	70.6	1,231	△58.6	1,082	△46.7

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 3,685百万円 (—%) 29年3月期第1四半期 △2,281百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	28.98	28.90
29年3月期第1四半期	10.29	10.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	113,530	104,452	91.8	986.72
29年3月期	119,461	106,516	89.0	1,007.28

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 104,180百万円 29年3月期 106,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	56.00	56.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	56.00	56.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,000	△9.5	1,300	△52.7	4,300	△12.3	3,100	△18.1	29.46
通期	42,000	13.4	11,500	31.0	16,000	5.2	11,700	0.6	111.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）－、 除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	107,723,374株	29年3月期	107,723,374株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	2,140,444株	29年3月期	2,229,512株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	105,513,226株	29年3月期1Q	105,181,169株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善、個人消費の持ち直しにより緩やかな回復基調が継続しております。

ゲーム業界におきましては、2017年3月に発売された新型ゲーム機「Nintendo Switch」が販売台数を伸ばし、「PlayStation 4」の世界累計販売台数が6,000万台を突破するなど、家庭用ゲーム市場が活性化しております。スマートフォンゲーム市場においても新興国を中心に市場の拡大が予想され、ゲーム市場全体は更なる成長が見込まれます。

このような経営環境下において、当社では経営方針「IPの創造と展開」のもと、各種施策に取り組んでおります。2017年4月に設立した新ブランド「midas(ミダス)」は、若手社員が主力となり自由闊達なアイデアを結集し、スマートフォンゲーム市場において新規IPの創造を目指し開発を進めています。パッケージゲームでは、「信長の野望」シリーズの第15作目となる最新作『信長の野望・大志』の制作を発表したほか、6月に開催された世界最大規模のゲームイベント「E3」では、株式会社スクウェア・エニックスより、同社と当社が共同で開発する『ディシディア ファイナルファンタジー NT』(PS4用)が発表されました。

当期は主力タイトルの多くを第3四半期以降に発売を予定しておりますが、当第1四半期は計画を上回り順調に進捗し、売上高65億16百万円(前年同四半期比15.3%減)、営業利益9億84百万円(同16.4%減)となりました。また、有価証券売却益の増加により営業外収益は好調に推移し、経常利益41億83百万円(同239.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益30億58百万円(同182.5%増)となりました。経常利益、四半期純利益については、第1四半期連結累計期間として経営統合以来、最高益を更新しました。

事業の種類別セグメントの状況につきましては以下のとおりです。

エンタテインメント事業 売上高 57億67百万円 セグメント利益 8億14百万円

「シブサワ・コウ」ブランドでは、欧米向けに『三國志13 with パワーアップキット』(PS4、Xbox One、Steam用)を発売し、国内ではオリジナル要素を加えたPS Vita版を発売しました。積極的なコラボレーション施策を展開した「100万人シリーズ」や2周年記念キャンペーンを実施した『信長の野望 201X』も堅調に推移しております。

「ω-Force」ブランドでは、欧米向けに『戦国無双 ～真田丸～』(PS4、Steam用)を発売しました。スマートフォンゲームでは当社がIPを許諾し、台湾XPEC Entertainment社が開発、ネクソン・ 코리아・コーポレーションが展開する『真・三國無双 斬』(英語タイトル:『DYNASTY WARRIORS: UNLEASHED』)が日本・中国を除く139の国・地域にて配信され、700万ダウンロードを突破し、「真・三國無双」IPの海外展開で大きな成果を収めました。

「Team NINJA」ブランドでは、『DEAD OR ALIVE 5 Last Round』(PS4、PS3、Xbox One、Steam用)の基本無料版が累計900万ダウンロードを突破しました。『仁王』(PS4用)も5月にダウンロードコンテンツ三部作の第一弾「東北の龍」を配信したほか、リピーター販売も引き続き好調です。スマートフォンゲームでは、株式会社スクウェア・エニックスと共同で開発した『DISSIDIA FINAL FANTASY OPERA OMNIA』が収益に貢献しました。

「ガスト」ブランドでは、東映アニメーション株式会社とのコラボレーションによるアニメとゲームが融合したスマートフォン用アプリ『拡張少女系トライナリー』を4月にリリースしました。

「ルビーパーティー」ブランドでは、5月に『進撃の巨人 死地からの脱出』(ニンテンドー3DS用)を発売しました。イベント事業では、「遙か美男子祭りコンサート -遙かなる時空の中で3 & 6-」を開催しました。

SP事業 売上高 2億64百万円 セグメント利益 90百万円

当第1四半期においては『パチスロ信長の野望・創造』がリリースされました。パチンコ・パチスロ機への液晶ソフト受託開発は順調に進捗しております。

アミューズメント施設運営事業 売上高 2億95百万円 セグメント損失 20百万円

プライズゲーム施策が奏功し、既存店売上高は前年を上回りました。多機能VR筐体『VRセンス』の開発費用が先行したことから、セグメント損失が発生しております。

不動産事業 売上高 1億94百万円 セグメント利益 84百万円

当社グループが保有する賃貸用不動産は引き続き高い稼働率を維持しております。

その他事業 売上高 50百万円 セグメント利益 16百万円

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比較して59億31百万円減少し1,135億30百万円となりました。これは主に、売掛金が41億77百万円、現金及び預金が41億53百万円それぞれ減少した一方で、有価証券が34億42百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較して38億67百万円減少し90億77百万円となりました。これは主に、未払金が34億6百万円、未払法人税等が18億91百万円それぞれ減少した一方で、短期借入金が25億円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比較して20億63百万円減少し1,044億52百万円となりました。これは主に、利益剰余金が28億49百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年4月27日に公表いたしました平成30年3月期の第2四半期累計期間の連結業績予想を修正いたしました。なお、通期の連結業績予想につきましては変更しておりません。詳細につきましては、本日(平成29年7月24日)開示いたしました、「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,868	7,714
受取手形及び売掛金	8,168	3,990
有価証券	1,871	5,314
商品及び製品	96	78
仕掛品	4	13
原材料及び貯蔵品	42	47
繰延税金資産	939	546
その他	3,721	2,701
貸倒引当金	△23	△20
流動資産合計	26,689	20,387
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,993	10,914
土地	14,615	14,615
その他(純額)	517	506
有形固定資産合計	26,126	26,036
無形固定資産		
その他	208	199
無形固定資産合計	208	199
投資その他の資産		
投資有価証券	65,484	65,883
繰延税金資産	142	187
その他	809	836
投資その他の資産合計	66,436	66,907
固定資産合計	92,772	93,143
資産合計	119,461	113,530

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	487	295
短期借入金	—	2,500
未払金	4,244	838
未払法人税等	2,566	675
賞与引当金	949	469
役員賞与引当金	242	28
返品調整引当金	0	0
売上値引引当金	255	220
ポイント引当金	21	19
繰延税金負債	0	0
その他	2,691	2,307
流動負債合計	11,460	7,354
固定負債		
退職給付に係る負債	295	260
繰延税金負債	326	597
その他	861	864
固定負債合計	1,484	1,722
負債合計	12,944	9,077
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,000	15,000
資本剰余金	25,937	26,021
利益剰余金	66,159	63,309
自己株式	△1,456	△1,399
株主資本合計	105,639	102,930
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,130	3,686
土地再評価差額金	△3,115	△3,115
為替換算調整勘定	697	770
退職給付に係る調整累計額	△90	△92
その他の包括利益累計額合計	622	1,249
新株予約権	254	272
純資産合計	106,516	104,452
負債純資産合計	119,461	113,530

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	7,695	6,516
売上原価	4,753	3,889
売上総利益	2,942	2,626
販売費及び一般管理費	1,764	1,642
営業利益	1,178	984
営業外収益		
受取利息	423	514
受取配当金	466	520
投資有価証券売却益	504	2,127
その他	112	196
営業外収益合計	1,506	3,359
営業外費用		
投資有価証券評価損	940	33
投資有価証券売却損	0	93
為替差損	508	12
その他	4	21
営業外費用合計	1,453	161
経常利益	1,231	4,183
税金等調整前四半期純利益	1,231	4,183
法人税、住民税及び事業税	199	727
法人税等調整額	△51	397
法人税等合計	148	1,124
四半期純利益	1,082	3,058
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,082	3,058

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	1,082	3,058
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,017	556
為替換算調整勘定	△1,343	73
退職給付に係る調整額	△2	△2
その他の包括利益合計	△3,363	627
四半期包括利益	△2,281	3,685
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,281	3,685

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	エンタテインメント	S P	アミューズメント 施設運営	不動産	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	6,743	445	293	202	7,684	11	7,695
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	24	0	—	—	25	21	46
計	6,767	445	293	202	7,709	32	7,742
セグメント利益	979	176	24	84	1,264	10	1,274

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,264
「その他」の区分の利益	10
のれんの償却額	△96
四半期連結損益計算書の営業利益	1,178

(注) のれん及び資産については、セグメントごとの配分は行っておりません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	エンタテインメント	S P	アミューズメント 施設運営	不動産	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	5,737	264	295	194	6,491	24	6,516
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	29	0	—	—	30	25	55
計	5,767	264	295	194	6,521	50	6,572
セグメント利益 又は損失(△)	814	90	△20	84	968	16	984

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	968
「その他」の区分の利益	16
のれんの償却額	—
四半期連結損益計算書の営業利益	984

(注) 資産については、セグメントごとの配分は行っておりません。